

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

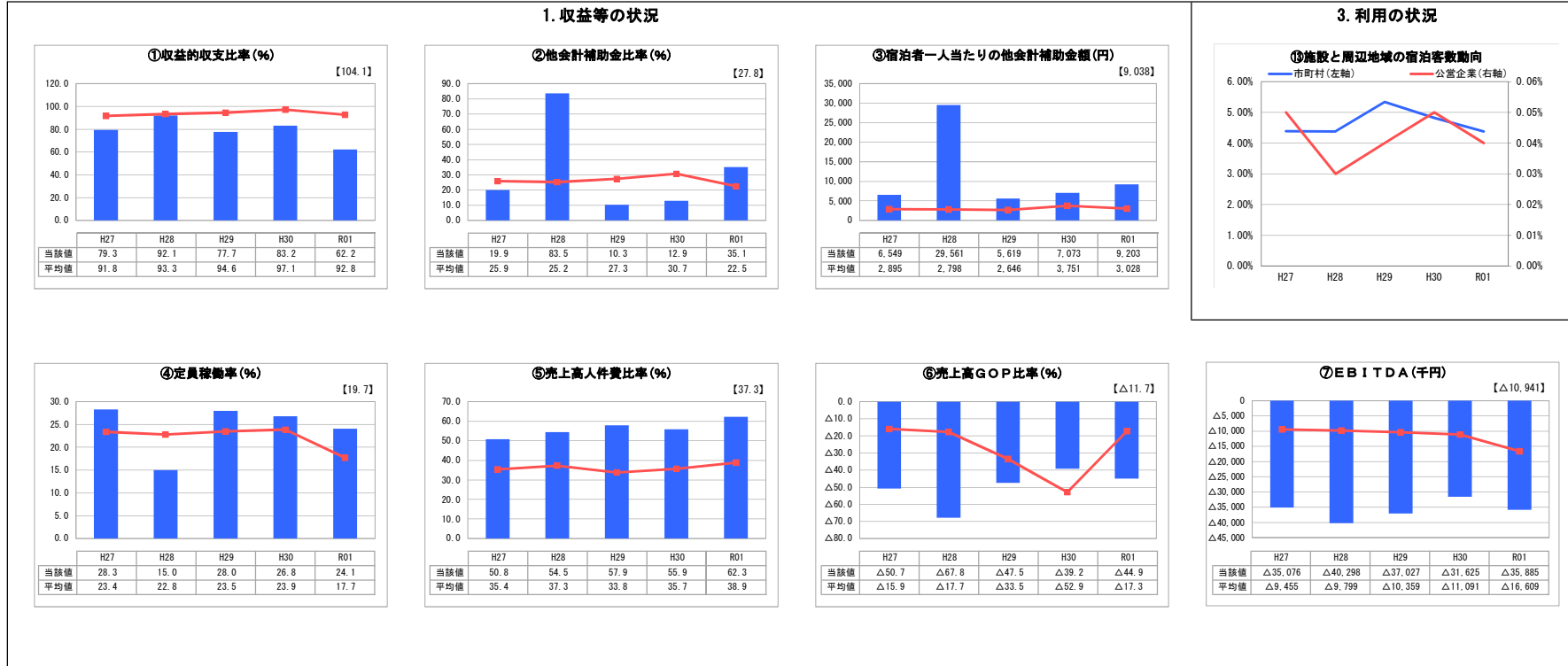
愛媛県西条市 本谷温泉館

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	観光施設事業	休養宿泊施設	A1B1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	建物延面積(m <sup>2</sup> )	宿泊定員数(人)	
該当数値なし	該当数値なし	1,503	20	

客単価(円)	指定管理者制度の導入	インターネットによる予約割合(%)
9,631	利用料金制	38.3
バリアフリー法の基準適合性	トイレ洋式化率(%)	Wi-Fi設置
有	100.0	有

**グラフ凡例**

- 当該施設値（当該値）
- 類似施設平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均



**分析欄**

1. 収益等の状況について

①収益的収支比率、⑥売上高GOP比率や⑦EBITDAの数値から、施設の収益性が昨年度より低下している。指定管理者の変更による、撤収作業での費用増加や新型コロナウイルス感染症が影響していると考えられる。また、②③の他会計補助金は一般会計からの繰入金等への依存度が高いため、経営改善に向けた取り組みが必要である。

⑤の売上高人件費比率が高く、人件費を抑制する必要がある。

④定員稼働率は平均値よりも高くなっているが、①の経常収支比率が低いため、料金水準の見直しによる収入増を検討する必要がある。

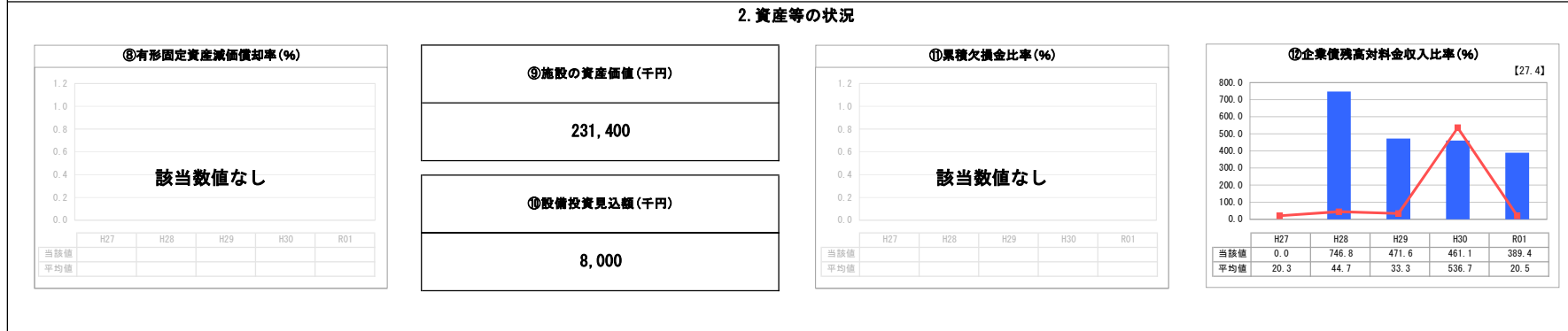
2. 資産等の状況について

平成28年度に大規模改修を行った結果、⑫企業債残高対料金収入比率が大きくなっている。なお、大規模改修では、機械設備の更新を行ったため、⑩設備投資見込額について、今後10年間は大規模な設備投資を見込んでいない。今後は将来の償還財源の確保等の経営改善に向けた取り組みを実施していく必要がある。

3. 利用の状況について

⑧施設と周辺地域の宿泊客数動向について、当該施設、周辺地域ともに宿泊需要が低下していると考えられる。新型コロナウイルス感染症を含めた今後の動向を注視深く見守り、地域全体での宿泊需要の厳しさを踏まえ、状況によっては施設のあり方を再検討する必要がある。

なお、日帰り入浴客の集客も課題であり、市と指定管理者が一層協力して取り組んでいく必要がある。



**全体総括**

現状では施設の収益性は昨年度より低下しているため、市と指定管理者が協力して人件費の抑制による支出の減や料金水準の見直しによる収入増を図る等の取り組みにより、経営改善を進める必要がある。

他にも、毎年の利用者数の目標設定と、目標を達成できなかった場合の原因の分析や改善案の検討等の検証作業を実施することで、売上増、支出減、利益増に取り組むとともに、他会計補助金額の縮小を目指していく。

施設のあり方については、今後の状況を見極めながら、再検討するかどうか判断していく必要がある。